

サロン・あべの

Vol. 133

サロン・あべの6月の出会い
97年6月21日(土)午後1時
から、育徳コミュニティセン
ター2階会議室において、サロ
ン・あべの6月の出会いを開催
した。パネラーは、世界身体障
害芸術家協会会員の森田真千子
さんであった。

生い立ち

昭和31年生まれ。0歳児のと
きに高熱により脳性小児麻痺
(CP)になる。当時の日本は、
森永ヒ素ミルク事件、水俣病、
脊髄性小児麻痺(ポリオ)など
を原因とする障害者の発生が社
会的に大きな問題となっており、
脳性麻痺に対する理解は深くな
かった。そのため、伝染病と誤
解され、一般の幼稚園には親た
ちの反対で受け入れてもらえな
かった。小・中・高校は、リハ

ビリを考えて養護学校で過こし
た。入学した頃の養護学校は、
軽度から重度まで障害に幅があ
り、また、入学には選抜試験が
あり、落ちれば在宅を余儀無く
された。当時、養護学校は大阪
府と大阪市に一校ずつしかなか
った。

養護学校で様々な障害児に出
会い、もまれたことが良かった。
先生の協力もあり、口に絵筆を
くわえて絵を描き始めた。また、
美術クラブで上手な先輩に刺激
され、絵の方に目標を見付け精
進していた。

世界身体障害芸術家協会

養護学校卒業後は在宅となっ
たが、世界身体障害芸術家協会
の会員になることを目標に努力
をし、4年前に会員となった。
世界身体障害芸術家協会は、

1956年にドイツのステック
マンが設立。口又は足で絵筆を
持つ画家の集まりであり、奨学
給付生・準会員・会員の3段階
がある。日本にいる会員は現在
6名、その内3名が大阪在住で
ある。会員になれば給料のよう
なもの支給され、制作した絵
は、協会本部を通じて世界中で
販売される。

3年に1回総会がウィーンで
開かれ、この4月に初めて参加
をした。世界中から110名の
障害者が参加。70歳代の高齢者
が多いが、若い人も登場してき
ている。

日本にも東京に出版社があり、
作品の通信販売をしている。年
2回、夏と冬にパンフレットが
作成され、会員の絵を、絵葉書
・カード・ハンカチ・タオル等
にデザインし販売している。

ひとりの障害者 自立の形



短歌

高校時代から絵とともに短歌も勉強をしてきた。現在までに2冊の歌集を発行している。

・いやだと思ってものがれられない我身

鏡みても笑っているしかない

・後ろにできた道

幾重にも蛇行し

今さらながら

作品は生き方だと思おう

e t c . . .

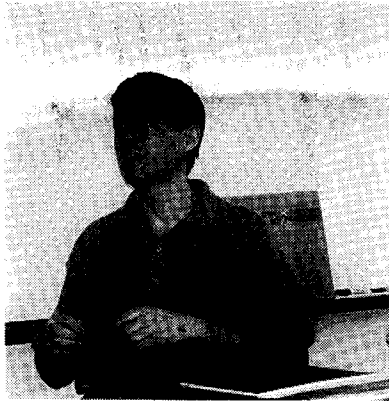
まとめ

私って何?と考える。障害を意識して止まってはいけない。チャレンジしてほしい。昨今、

一般の学生の感覚が鈍く感じる。障害者からは鋭い感覚が生じている。五感を磨ける立場にいるのではないかと考える。障害を前向きに考えてほしい。こだわりの持つて生きていきたいと考えている。

森田さんのお話の途中、ベルギーから来日中のヘールト・ネイスさんが参加。時間的な都合で早目に帰られた。その後、参加者からの質問等に答えていただけ、サロン・あべの6月の出会は幕を閉じた。

参加者 32名。(上平幸雄)



ナイス ミー ツウ ユー

森田真知子さんを迎えた六月のサロンに思いがけない来客がありました。

日頃からサロンの活動場所として利用させていただいている育徳コミュニティセンターの村尾先生のご紹介で、「ナイスミー ツウ ユー」と柔らかな笑顔のヘールト・ネイス氏に出会いました。

ヘールト・ネイス氏は、財大阪府文化振興財団が主催している「ART EX AND IST-EXCHANGE /アーティスト・イン・レジデンス プログラム(芸術家の交換会)」に招かれて、大阪で開催される「ART EX X (アーティストックス)」第八回展で個展を持たれる為ベルギーより来阪されていました。この滞在中に日本の身障芸術家や、多くの方との出会いを希望されて、サロンへ参加されました。

ヘールト・ネイス氏は、十年前に車椅子身障者になり、五年前より好きな芸術の道に進めたそうです。氏の絵画スタイルは、バルズ(ジグソーバルズの形)、ウインドウズ(水平の細長い形)、カラム(垂直の

形)等三つの形があり、その中でイメージネーションを生じ、心の中でそれを膨らませ実感していく。部分やロゴを見ることにより、全体を知る。禅の心にも通じると言われました。又、有名になるよりGOODになりたいたとも言われ、そのお人柄が偲ばれました。

アーティストは、外へ出ることが大切であり、多くの人と作品を共有することが大切であるとのこと、星の王子様にちなんだ星形図を描いた周りに多くの方のサインが署名されているキャンパスを持参されました。そこへサロンの参加者もサインをどうぞ、願い事も叶いますよと言っていたので、参加者それぞれが願いを秘めながらサインをさせていただきました。

このキャンパスは、OXYギャラリー(大阪南港北一六三九ライカグループ本社内 六月二十七日〜七月二〇日)で氏の作品の一つとして展示されるそうです。

短い時間の出会いではありましたが、今後もハサロン・あべのVとの交流をお願いして「シィュー」とお別れしました。

さろん亭

熱烈なご協力を...

- 物品を寄贈してくださる方。
- 準備を手伝ってくださる方。
- 販売を手伝ってくださる方。
- 買いに来てくださる方。

8月3日(日)あべの・カーニバルに「さろん亭」が店開きます。みなさまの熱烈なご協力をお願いします。

Please Call Me

石田 律 阿倍野区昭和町3-11-13 TEL.06-622-2018
辻本 輝子 阿倍野区阪南町3-40-5 TEL.06-621-2241
富田 慶子 阿倍野区阪南町6-3-26 TEL.06-691-1028
中原 友喜 阿倍野区丸山通2-10-6 TEL.06-652-1208
山村 貴司 東住吉区南田辺5-1-18 TEL.06-691-9071

● 品物はご連絡くだされば取りにうかがいます。

「介助をしている人で、グループを作るけれど、来ない?」

「どんなグループなの?」

「介助の仕事をしている人達の所得保障や身分保障を考えるつもり。」

そうです。介助は職業としては確立されていないのが現状です。高齢者、障害者を支える介助者が社会的な弱者であるとも言えるでしょう。

所得保障の面では、ホームヘルパーの利用が週一八時間以内の上限が廃止されたこと、登録介護人の制度(東京都では脳性マヒ者等介護人派遣事業)等で、介助者が一定の収入を得ることができると言えます。しかし、申請しても厳しい審査があったり、手当等が介助ではなく家族の生活費のために使われていたり、ということをよく耳にします。

中には制度を利用して、月に約二〇万円(給料を介助者に支払っている例もあります。しかし、その場合でも、社会保険等の身分保障はありません。

もちろん、介助者の身分保障の問題は社会福祉の中の大きな課題ですが、冒頭の「介助者のグループ」をつくる話を聞

いて感じたのは、「介助者だけで話し合われてはいけない」ということです。身分保障という体系をつくりだすことだけが、あたかも目的であってはならない、と感じたのです。介助者は介助を必要としている人がいて、初めて存在するものです。つまり、「よい介助を提供していくこと」が大きな目的としてあることを忘れてはなりません。

私たちは様々なシステム(体系)の中で生きています。一人の人間は家庭、学校または職場、地域と様々な器の中に属しています。私たちは、必要があってシステムをつくるのですが、それは、よい結果も生じますが、悪い結果も生じさせます。

学校の画一化した授業によって、ついていけない子どもは「落ちこぼれ」にされます。また、将来、人間に遺伝子治療が行われるようになったら、難病はなくなるかもしれないませんが、現在、難病を持ちながら当たり前に生きている人の価値は否定されてしまうことになりません。

時に体系化、構造化することに躍起になり、「何のための体系化なのか」ということが、見落とされがちではないでし

ようか。

関西に研究組織を持つ「TEACCH(ティーチ)プログラム」は二〇年前にアメリカのノースカロライナで発案された自閉症児を対象としたプログラムです。このプログラムは、生活に「構造化」を取り入れ、自閉症児に生活能力を付けさせていくものです。この「構造化」に哲学と理論とはありますが、マニュアルはないそうです。ある人の実践がうまくいっても、他の人でうまくいくとは限りません。「構造化」にその人をあてはめるのではなく、その人にあった「構造化」をつかっていくのです。

自立生活センターの「介助者の心得」の中に「利用者とは一定の距離を持って」「介助者としてと個人としての付き合いにはじめをつける」とありますが、これは原則であり、どこまで割り切るかはその場にいる人の判断に委ねられるでしょう。

「介助者の心得」は次のように結ばれています。

「介助は心の伴う活動です。利用者の個性を大切にしながら活動して下さい。」

★人の目

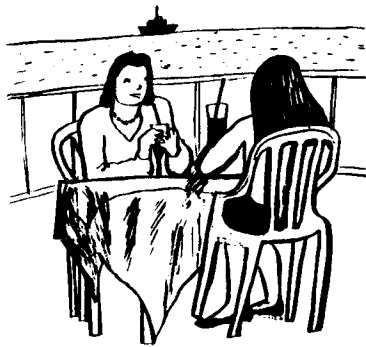
旅先で小さな部屋を借りてしばらく住んだ。たちまち部屋は汚くなった。しかし、気にしなかった。周りは知らない人ばかりだし、部屋に入ってくることもないだろうと思ったからだ。

すると、部屋は、どんどん汚れていった。いくらなんでも、ひどすぎると思っただけで片づけはじめようとしたが、自分さえがまんすれば、すむことなのだと考えなおして、あつさりやめてしまう。

言い訳めいているが、こんな私でも自宅の部屋は、実はわりあい整理している。家族の目があるからだ。「片づけなさい」と、子どものように叱られるわけではない。自分以外の人の目があるというだけで、きれいにしようと思う。

「人の目」というと、「人の目ばかりを気にして」とか、「人の目をはばかりて」とか、どちらかというと、あまり良い意味では使われない。たしかに不自由さや虚栄を思いださせる言葉が多い。

しかし「人の目」は大切だ。「人の目」があるから、不精な私でも、部屋を掃除しようとする。部屋をきれいにしたかったら、人を招くことだ。



ひとの心も同じことだろう。心をいつまでも人に見せないことはできる。しかし、そうしたとき、心の汚れは、どんどんたまっていく。自分の心のなかのこと

だから、どんなに汚れても誰にも迷惑をかけないだろうと、私たちは油断している。だが、たまった汚れは、私たちの感覚を歪ませる。

思いだしてみよう。なかなか心を開かなかった人が少しだけ窓をあけてくれたとき、そこに何が見えただろう。秘密めいた扉の間からは、隠された財宝の輝く光ではなく、慣れきった鼻には、わからなかったのだろうかと思うほどの強い臭いと、よどんだ空気だけが漏れていたのではなかったか。

だから、窓を開けよう。人を招こう。自分の心を人に見てもらおう。何を考えているか、どう感じているか、何を恐れ、何を喜んでいるか。何に不安を感じ、何を希望しているかを聞いてもらおう。そうすれば、私の怒りが見当ちがいだったことがわかるかもしれない。私の笑いの陰に隠れた悪意に気づくかもしれない。誰にも見せない秘密をもつことは、人

にとつて自然なことだ。しかし多すぎる秘密は、心を汚し、やがては腐らせる。自分しか見えない日記や、人に見せることのない引き出しの中にも、誰かの目を意識しておきたい。盗み見られるという

のではない。自分のなかに、もう一人の「目」を覚えること。それを「良心」とよぶ人もあるだろう。どのような恐ろしいことをする人も、はじめは私たちと同じような感覚で生き

ていたにちがいない。しかし、心を閉ざし、憎しみと恐怖のなかに身を浸すことによつて、その感覚が歪んでいく。人の目は、私たちを清める陽の光のようなものなのである。(知)

美智子のこんな話

岸田 美智子

皆さん 読んでみて下さい!

今まで、社会福祉の分野のいろいろな題は、それぞれの立場の人達が書いてこられたと思いますが、今回の本は、その社会福祉の分野の問題を、女性差別の問題からとらえ直してみたいものです。

社会福祉のなかのジェンダー

福祉の現場のフェミニスト実践を求めて

杉本貴代栄 編著

A5判美装カバー・296頁・本体2800円 *MINERVA 福祉ライブラリー⑤

社会福祉をフェミニズムの地平へ

フェミニズムが広く人々のあいだで語られるようになったとはいえ、介護、労働の場での様々な性差別、女性への暴力など、社会福祉に密接に関わる領域において、いまだに解決されえない問題も山積しています。本書は、社会福祉の実践をジェンダーの視点で再検討し、社会福祉のフェミニスト実践の方法の確立を求め現場からの提言です。

私はこの本で、ライフネットワークの八年間の活動をまとめてみました。それで、私たちの活動の中では、まだまだ

だ女性差別の問題を整理できていないと、あらためて実感してしまいました。このような本ですが、一人でも多くの皆さんに読

第4章 女性の生活・労働

①女性センター・地域における女性問題解決の拠点たりうるために②重度障害者の現状と望むもの③保育園と働く母親④雇用と女性

第5章 女性と高齢者問題

①特別養護老人ホームと女性問題②特養における職員をめぐるジェンダー問題③上田市ホームヘルプサービスを担った女性たち④訪問看護と女性問題⑤社会福祉協議会とボランティア・コーディネーターの役割

序 周辺から中心へ

第1章 女性と貧困

①福祉事務所とフェミニスト実践②婦人保護施設と売春防止法③女性と貧困問題

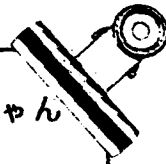
第2章 女性と相談事業

①婦人相談所と女性問題②女性相談事業とジェンダー③民間女性シェルターの活動と悩み④フェミニスト・カウンセリングと女性相談

第3章 女性と家族支援

①母子寮と女性問題②障害児と母親③養護施設と女性問題④自立援助ホームと少女の自立⑤精神保健・医療と精神障害者福祉における女性

んでいただきたいと思ひます。
ぜひ、皆さんからの感想をお待ちして
います。



おもしろい 姉ちゃん

励みになる返事

いずみ学園に実習生がやっ
てくる季節となりました。
毎日、実習生が感じたこと
や疑問に思ったことを書いた
実習ノートに職員が返事を書
くのですが、書くことがない
んだなという内容で、こちらも返事
に困る人もいれば、意図した以上に
職員の子どもへの対応を深読みして
くれています、こちらが照れたり反省
する内容の人もいます。
昔、私も実習先で最初、ノートに
書く内容がなかったのが、一番最後
のノートには、



「最初のノートを読んだ時はどうな
るかと思いましたが、後半生き生き
としましたね。」
と担当の先生に書いてもらって、自
信をつけたのを思い出します。
そして、現在は実習生さんの励み
になる返事をかけるよう気をつけて
います。

田 淵 美登利

~~~~~朗読テープのご案内~~~~~  
朗読グループ「ぼけっと」のご協力で、  
△サロン・あべのV紙二三三号の録音テー  
プが出来ました。バックナンバーは三九号

から、一三三三号の分があります。

五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテー  
プに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本に、  
△サロン・あべのV十周年記念誌「はあと  
が、はろー!」は、九〇分テープ二本と一  
二〇分テープにそれぞれ収録されています。  
又、絵本「未知の記憶」(作・絵||中川  
勝彦、「ラジオたんぱ」(三〇分)放送の  
「△サロン・あべのV平成七年五月の出会  
い」、エッセー集「逃げたノヨナク」ボラ  
ンティア活動の周辺」(岡本栄一著・表  
谷恵美子音訳)もあります。

いずれもご希望の方には、ダビングをし  
ますので、富田までお申し出下さい。  
(☎〇六〇六九一一〇二二八)

## 感謝

カンパ、写真、お茶菓子、バザー用品、  
冊子等のご寄贈、また、サロングッズのお  
買い上げありがとうございます。

お礼を申し上げます。

育徳コミュニケーションセンター、

大北清子、岡 知史、岡崎美智枝、

小谷由紀子、猿田博史、三田博子、秀翠、

増田和子、柳生幸子、その他の方々



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」8月の出会い

日時；8月9日(日)午前11時~午後6時  
場所；淀川区民センターグランド  
[淀川区野中南2-1-5]  
内容；「今年の夏は、たこ焼き焼いて  
ガンパロウ」

パネラー；たこ焼き研新長、和川スタッフ  
宮本志津代氏  
会費；なし  
問い合わせ先；淀川区社協 絆フェア・ビューロー  
TEL06-394-2900

■「サロンつるみ」8月の出会い

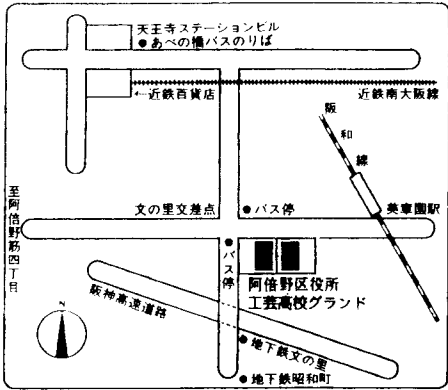
日時；8月10日(日)午後1:30-4:00  
場所；大阪市立鶴見会館2階  
[鶴見区横5-5-51]

パネラー；森元暢之氏(漫画家)  
—1981年11月号雑誌「加」でデビュー  
書籍「反省しない犬」青林堂・刊—

会費；なし  
問い合わせ先；TEL06-913-7070  
(鶴見区絆フェア・ビューロー・藤井・山本)

■《てくてく・すみよし》8月の出会い

日時；8月10日(日)午後6時~8時  
場所；長居スポーツセンター2階研修室  
[JR阪和線長居駅下車  
TEL06-697-8681]  
内容；「昔なつかしい！今またハヤリ  
のオールドポップス」歌声喫茶  
参加費；500円  
お申し込み・問い合わせ先；  
TEL06-692-8411 (山本)



- 地下鉄 御堂筋線 昭和町下車北へ徒歩7分  
谷町線 文の里下車北へ徒歩5分
- 市バス 阿倍野区役所前下車
- JR 阪和線 美章園下車西へ徒歩7分

お問い合わせ先  
TEL06-691-1028(富田慶子)

内容 「さろん亭」開店  
—サロングッズを中心に、  
お買い得商品がいろいろ—  
—ご来店をお待ちしています—  
場所 あべのカーニバルなんでも市通り  
(阿倍野区役所裏工業高校裏)  
〒545 大阪市阿倍野区文の里  
1-1-140

日時 平成九年八月 三日(日)  
午後三時~六時

▲サロン・あべのV八月の出会い

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.133[97. 7.19.発行] 定価¥100.  
代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365  
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028  
表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子  
郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941  
印刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F TEL06-719-8212 FAX06-719-8213